

作曲公開講座

講師：マーク＝アンソニー・ターネジ

2024年5月24日（金）18:30 開演（18:15 開場）

会場：国立音楽大学新1号館 142 オーケストラスタジオ

入場無料

通訳：板倉 康明（本学客員教授）

事前申し込みは不要です。直接会場にお越しください。詳細は本学公式 Web サイトをご確認ください。

～～プログラム～～

Release (1987) Mark-Anthony Turnage (1960-)

マーク＝アンソニー・ターネジ

Set to (1992-93)

No Let Up (2002-03)

演奏：本学学生
指導：板倉 康明
助手：西山 夏生

～～講師プロフィール～～

マーク＝アンソニー・ターネジ Mark-Anthony Turnage

国際的に活躍する作曲家マーク＝アンソニー・ターネジは、ここ30年のイギリス音楽界における最も重要なクリエイターのひとりである。初のオペラ《グリーク》(1986-88)で、ジャズとクラシックを融合させ、モダニズムと伝統との間に独自の道を切り開いた芸術家という評価を早くも確立させた。続いて1989-93年にはバーミンガム市交響楽団のコンポーザー・イン・アソシエイトをつとめ、《3人の叫ぶ教皇》(1988-89)をはじめとする重要な作品群が書かれている。オペラでは、《銀杯 The Silver Tassie》(1997-99)がイングリッシュ・ナショナル・オペラで初演、《アンナ・ニコル》(2008-10)はロイヤル・オペラ・ハウスを満員にし、《コラライン》(2015-17)はロイヤル・オペラによりバービカンシアターで初演後、各国で再演されている。近作として、「Hibiki」(2014)、「リメンバリング」(2014-15)、「シンフォニック・ムーブメンツ」(2017)などのオーケストラ曲、《トレスパス》(2011)、「ストラップレス》(2015)などのバレエ曲、マルカンドレ・アムランのための「ピアノ協奏曲」(2013)、ジャズ・ドラマーのピーター・アースキンをフィーチャーした「アースキン」(2013)、ダニエル・ホープとヴァディム・レーピンのための二重協奏曲「Shadow Walker」(2017)などの協奏曲や、弦楽四重奏曲「Contusion」(2013)、「Shroud」(2016)などがある。

デッカ、シャンドス、EMI、ロンドン・フィル・レーベル等に多くの録音があり、ドイツ・グラモフォンからリリースされた「Scorched」(1996-2001)はグラミー賞にノミネートされている。ロイヤル・カレッジ・オブ・ミュージックのフェロー。2003年までの作品はショット・ミュージックから、以降はブージー&ホークスから出版されている。

※就学前のお子様のご同伴・ご入場はご遠慮ください。

※公開講座開催に際しまして留意事項がございますので、本学公式 Web ページよりご確認ください。

※やむを得ない事情により出演者や内容等が変更になる可能性がございますので、あらかじめご了承ください。

※車いすでご来場の方は、事前に演奏芸術センターにお問い合わせください。

